

## ケミカルピーリング

のもと皮膚科クリニック 野本 真由美

(2006年10月9日放送)

Q ケミカルピーリングで皮膚の若返り治療が行えるのですか？

A ケミカルピーリングの「皮膚の再生を促す」という性質を利用して、くすみや小じわ、しみなどの加齢に伴う皮膚トラブルの治療が行われています。

Q どのようなしくみで皮膚を若返らせるのですか？

A ケミカルピーリングの作用を4つに分けて説明いたします。

皮膚の表面を剥ぐことによる直接的な効果です。紫外線や活性酸素などで壊された古い角質や、落としきれなかったメイクが残っている状態を治療で一掃することができます。これによりいわゆるくすみが改善され、お化粧ののりがよく感じられます。

角質層が脱落すると、新しい表皮細胞を次々と作るという皮膚の特性を利用して、皮膚の代謝、これをターンオーバーと言いますが、それを早める間接的な効果です。子供の肌が何もしないのにきれいなのは、この皮膚のターンオーバーが早い、つまり次から次へと新しい表皮が生まれ変わっているためです。年齢を重ねるにつれ、そのサイクルは遅くなり、そこに冷え症などの循環障害や誤ったスキンケアなどにより角質が脱落しにくくなると、角質は厚くなり、水分を十分含めなくなるため透明感を失ってしまいます。表皮のターンオーバーが早まれば、皮膚を若返らせることができるというわけです。

薬剤そのものの効果です。選ぶ薬剤や濃度、PHによって効果も変わります。例えば、一番よく使われているグリコール酸ですと、表皮や真皮におけるヒアルロン酸の増加や、真皮の膠原線維の増加、角質のセラミド含有の増加などの作用がありますので、皮膚にはりがでできますし、角質層の水分量を上げることで、小じわを目立たなくする効果があります。もちろん、日本人の肌に安全なものを選んで行います。

角質層を除去するあるいは結合を弱めると、皮膚に有効な薬剤の浸透が容易になりますので、ケミカルピーリング後に外用療法を併用すると、治療の効果をあげることができる点です。

Q 併用する外用療法とは？

A 例えば色素沈着の治療には、トレチノインなどのケミカルピーリングにハイドロキノンクリームやビタミンCクリームといったいわゆる美白剤を併用します。また、ケミカルピーリングによく併用される治療としてイオン導入という治療があります。これは、皮膚に微弱な電流を流すことで、ただ塗るだけでは吸収されにくい水溶性ビタミンCのような有効成分を皮膚の深部にまで届けるといった方法です。この治療も単独で行うよりケミカルピーリング後に行ったほうがより成分が吸収されやすくなるため、ケミカルピーリングと併せて行われています。

Q ケミカルピーリングは何度も続けないと効果が現れないのでしょうか？

A 1回の治療でも均一に古い角質を除去できますので、くすみの改善やお化粧ののりのよさを実感することができます。しみや小じわの改善、皮膚のハリを感じていただくには、2～3週間に1度、回数を重ねて治療していく必要があります。

Q 自分の肌のターンオーバーが正常かどうかは鏡を見ただけではわかりにくいのですが？

A まずは洗顔後の、ご自身の肌をよくご覧になって下さい。子供のようにはほやおでこがつつやつやとしていますか？ もしそうでなかったら、スキンケアが誤っているか、皮膚のターンオーバーが遅れているのかも知れません。皮膚科でスキンケアを見直したり、ケミカルピーリングを受けてみるのも一法だと思います。